

新公立病院改革プラン

【果たすべき役割編】



平成 3 0 年度実績

令和元年 11 月 12 日

新公立病院改革プラン3年目実績について

【果たすべき役割】

【主な取組事項】

基本方針

1. 住民の安心安全のための医療充実

(1) 地域医療の拠点病院として、急性期・回復期医療を中心とした医療を提供します

- ・急性期医療を担う上で、透析通信システム・母体胎児集中管理システムなどの高度医療機器について、新規整備を実施した。
- ・平成29年度にバージョンアップ済みの総合医療情報システムについて、平成30年度に診療局・管理棟の端末整備を実施した。

(2) 災害拠点病院として、災害時の医療提供体制の整備を図ります

- ・災害派遣医療チーム（DMAT）について2班体制を維持し医療救護体制の充実を図った。
- ・雲南市立病院事業継続計画（BCP）について、概要版を新規作成した。この概要版を基に令和元年度中に、具体的な行動計画を含めた確定版を作成する。

(3) 救急医療体制を維持し、住民が安心して生活できる二次救急医療を提供します

- ・救急連絡会を通じて救急車の受入不可事案を検証しながら、救急車の受入件数の増加を図り救急医療の充実に努めた。
(H30年度：827件、H29年度830件、H28年度：741件、H27年度：591件)
- ・雲南市休日診療に協力し、休日の救急体制の充実を図った。インフルエンザ流行期の効果(救急外来の適切な運用、感染拡大の防止等)が多大であった(20人/1日)。

(4) 安心して子育てできる環境を確保するため、小児・周産期医療の連携を密にした診療体制を整備します

- ・新棟において、産婦人科外来と病棟の一体化、病棟内のユニット化を図り、安全と安心の提供に努めている。
(出産数 H30年度：69件、H29年度：39件、H28年度：46件)
- ・小児科医師2名体制を維持し、小児救急対応や入院できる医療機関としての体制の充実を図っている。

(5) 地域包括ケアシステムを構築する一環として、在宅医療や認知症対策を推進します

- ・在宅医療を推進するため、地域ケア科を中心に訪問診療(H28年8月)を開始した。平成30年度は、実患者数28名に対し、延べ訪問診療205件、往診30件、在宅看取りを14名に実施した。
(H29年度:実患者数22名に対し延訪問診療105件、往診44件、在宅看取り19名)
- ・平成29年度に、院内多職種協働の認知症サポートチーム(DST)を設置し、ユマニチュード研修に毎年2名ずつ派遣し、より専門的な知識の習得を図っている。また、

8月には、岡山大学医学部より講師を招き認知症研修会及び院内ラウンドを行い、職員間のレベルアップに努めた。

- ・認知症に対する専門的知識を有する認知症認定看護師の資格取得を目指し、看護師1名が研修を受講し、平成31年3月にすべての研修を修了した。

(6) 情報発信に努め、定期的に地域との連絡の場を確保するなど、地域に開かれた病院を確立します。

- ・より分かりやすく検索しやすい病院ホームページへとリニューアルした。
- ・平成30年度は、がんばれ雲南病院市民の会及び雲南市立病院ボランティアの会主催による、新たに着任された医師の歓迎会が前年度に引き続き開催され、地域を挙げて6名の医師を歓迎していただいている。

(平成28年度 医師5名、平成29年度 医師3名)

- ・平成30年度の医療出前講座は、全100回、述べ2,836名の市民の皆様に利用していただき、地域における予防等の普及啓発活動を推進した。

(平成27年度：全60回、延べ1,536名、平成28年度：全81回、延べ2,058名、平成29年度：全80回、延べ2,368名)。

- ・雲南地域医療を考える会主催の地域医療シンポジウムや、地域を守り育てる住民活動シンポジウム等に住民の方々と一緒に参加することで、地域住民と病院職員が一体となった活動を継続し更なる連携強化に努めた。

基本方針

2. 高度先進医療及び地域医療機関との連携強化

(1) 高度の医療を中心とする5疾病などの医療は、急性期と回復期医療の中心的役割を担いつつ三次医療機関との連携を図ります

- ・三次医療機関からの逆紹介について100%を維持しており、引き続き三次医療機関との情報共有と連携強化を図っている。また、回復期リハビリテーション病棟について、休日リハビリテーションを実施し、患者が集中的なリハビリテーションを365日継続し、早期の在宅復帰を果たすことができる体制を継続している。

(2) 一次医療機関（診療所）との連携を強化します

- ・平成27年7月から在宅療養後方支援病院として、患者・家族の安心の担保、診療所医師の負担軽減を図ってきており、現在登録患者が236名（平成31年3月末現在）となっている。
- ・西村医院、田井診療所所長が不在の間当院から医師を派遣し（H30.12.26～H31.3.27）、地域の医療の一助となった。
- ・掛合診療所については、医師の相互派遣や整形外科医師の定期的な派遣を継続しながら経営統合に向けた協議を進め、平成31年4月より当院の附属掛合診療所として新たにスタートした。

(3) 圏域内の二次医療機関との連携を図ります

- ・引き続き町立奥出雲病院に耳鼻科医師を、飯南町立飯南病院に整形外科医師を週1回派遣し、連携強化に努めている。

基本方針

3. 地域保健の充実と介護・福祉との連携強化

(1) 圏域内の保健・福祉と一体とした地域医療サービスを提供します

- ・平成30年度出前講座では、介護施設に認定看護師を8回派遣した。また、在宅看取りや健康長寿に関する講座へ医師を派遣することで、より専門的知識や情報を提供し地域の医療と介護の連携に努めた。

(2) 地域保健と連携し、生活習慣病の重症化の予防を図ります

- ・平成30年度は、特定健診要精査者のフォローアップや生活習慣病予防のため、糖尿病教室（4回）、健診事後フォローアップ教室（2回）の保健事業を実施した。地域の交流センター等を会場にして、地域の保健関係者と連携しながら実施した。
- ・糖尿病対策委員会及び糖尿病サポートチームを中心に、院内外での研修会及び連絡会に積極的に参加し、糖尿病患者の支援、啓発活動を推進した。

(3) リハビリテーションを中心とした環境を整備し、高齢者が安心できる医療を提供します

- ・訪問看護ステーション配属の療法士のほかに、必要に応じて利用者のニーズがある言語聴覚士が訪問リハビリを行い、リハビリテーション提供体制を強化している。

基本方針

4. 地域医療を安定的に提供するための健全経営

(1) 安定した医療を提供できる人材確保や育成に努め、また職員意識の高揚を図ります

① 医師確保について

(ア) 平成31年4月1日現在の医師配置数

- ・常勤医師数：26人（歯科医師1人含）
- ・非常勤医師：常勤換算数9.0人（実人数67人） ※歯科医師除く

(イ) 常勤医師配置状況

平成31年4月1日現在

	内	外	小	整	耳	眼	産	皮	リ	精	泌	脳	麻	放	歯	計
計画	6	5	2	4	1	1	1	1	1	0	2	0	1	0		25
現状	7	5	2	6	1	0	1	1	1	0	1	0	0	0	1	26

(ウ) 常勤医師年齢構成

平成 31 年 4 月 1 日現在

年代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	合計
人数	3	7	5	8	2	1	26

(エ) 地域枠推薦医学生の年度別人数

平成 31 年 4 月 1 日現在

島根大学医学部 (9)						医 師 (15)		
1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	初期研修医	専攻医	6年目以降
2	1	3	2	1	0	1年目 4	医師3年目 0	医師6年目 1
						2年目 5	医師4年目 2	医師7年目 0
							医師5年目 2	医師8年目 1

・医学生：9名 医師：15名 合計：24名

- ・平成 30 年 4 月に雲南市出身地域枠推薦医師 1 名（整形外科）が着任し、地域枠推薦医師 2 名（外科・整形外科）が当院で勤務した。平成 31 年 4 月現在も同様に 2 名が当院で勤務し、雲南の地域医療に貢献している。
- ・平成 30 年 4 月に島根大学医学部より産婦人科医師（女性）の派遣を受ける。
- ・島根県「赤ひげバンク」の紹介により、平成 30 年 10 月に外科医（I ターン医師）が 1 名着任することができた。今後も密な連携を図っていく。
- ・総合診療専門研修プログラムに 1 名の応募があり、平成 31 年 4 月より専門研修を開始した。この専攻医をロールモデルに、毎年プログラムに参加する専攻医を集め、雲南で総合診療を志す若手医師の研修環境整備を行う。
- ・しまね地域医療支援センターの助成金を活用し、著名な総合診療医や各分野の著名な医師を当院へ招聘し、総合診療のスキル獲得及び教育システムを構築する総合診療医育成研修・講演会を 5 回開催した。
- ・地域枠推薦医学生及び看護学生との意見交換会を開催。11 月には医学部地域枠学生・医師と交流会を学生が主体的に開催し、総勢 29 名が参加し「チームうんなん」の絆を醸成した。
- ・地域枠医師（11 名）に対し、今後のキャリア相談や雲南市の地域医療の現状を伝えるため、個人面談を行った。
- ・地域ケア科医師が平成 28 年度に医師国内研修を利用し在宅医療研修を行い、平成 30 年 6 月に在宅医療専門医を取得した。これにより、雲南における在宅医療の向上を図ることができ、地域包括ケアシステム構築に寄与している。
- ・内科医師が ERCP（内視鏡的逆行性胆管膵管造影）の技術取得のために、医師短期研修を活用し 5 日間島根大学で研修を行った。
- ・地域ケア科医師が医師短期研修を利用し、医学教育修士の取得に向け、オランダのマ

ーストリヒト大学で研修した（2年目）。最終年となる平成31年度は医学教育修士を取得し、学んだ知識等は、総合診療医育成や医学部学生教育に十分に生かしていく。

② 看護師の確保について

・雲南市出身地域枠推薦者について

地域枠推薦者22名（うち、看護師15名、学生7名）のうち、10名が当院で勤務し、雲南の地域医療に貢献している。（平成31年4月1日現在）

・看護師奨学金制度利用状況（H30年度：3名貸与）

・看護の質の向上及び看護職員のスキルアップ支援策として、9月に初めて特定行為研修終了看護師（7区分）が誕生した。今後、更に1名、研修開始を目指す。

・認知症看護認定看護師取得に向け、看護師1名が3月に研修修了した。（5月認定審査受験）また、皮膚・排泄ケア認定看護師の研修受講が決定した。これで現在、認定看護師は3名（感染管理、緩和ケア、摂食・嚥下障害看護）で、今後2名（認知症看護、皮膚・排泄ケア）が資格取得する予定。

③ 地域医療人育成センターの取り組みについて

地域医療を担う医療人の育成については、平成21年4月に設置した、「地域医療人育成センター」を中心に取り組みを進めている。今後も引き続き重点施策に位置づけ、以下の事業を中心に育成事業の更なる強化を図っていく。

・平成30年度地域医療人育成センター事業実績

（ア）医師育成事業

1) 総合診療医師短期研修（1名）

6月1日～9月30日（4ヶ月間）、総合診療医希望の医師1名（3年目）を当院で短期研修（地域ケア科所属）として受入れ。外来や入院での総合的なスキルの獲得や地域アプローチなど行い、中山間地での総合診療を学んだ。

2) 初期研修医による地域医療研修（15名 延13.5ヶ月）

島根県立中央病院（4名）、浜田医療センター（2名）、島根大学医学部附属病院（1名）、松江赤十字病院（1名）、松江市立病院（1名）、鳥取大学医学部附属病院（1名）、姫路赤十字病院〔3week〕（5名）

3) 島根大学医学生地域医療実習（20名 延46week）

6年生：10名（延28week） 5年生：10名（延18week）

4) 夏季・春季地域医療実習（6名）

夏季：3名（8月） 春季：3名（3月）

5) 島根大学医学部フレキシブル実習（2名）

3年生（1/15～18）

6) 地域枠推薦入学者医療現場実習

地域枠：1名（3月）

（イ）看護師等育成事業

- 1) 訪問看護師地域医療研修 (1名)
訪問看護ステーション「コミケア」より訪問看護師1名を4月3日から8日間受入れ、地域の特性に応じた訪問看護や医療の在り方、地域連携を含めた地域医療の基礎を学ぶ。
- 2) 看護教員地域医療短期研修 (1名)
島根県立石見高等看護学院の看護教員1名を7月30日から5日間受入れ、当院における病院と地域とのつながりや、地域包括ケアシステムにおける病院の役割・機能を学ぶ。
- 3) 認知症看護認定看護師臨地実習〔新規〕 (2名)
松江医療専門学校 (1/10)
- 4) 母性看護実習 (2名)
出雲医療看護専門学校
- 5) 在宅看護実習 (22名)
出雲医療看護専門学校、島根大学医学部、松江総合医療専門学校、島根県立大学
- 6) 老年看護実習 (3名)
松江総合医療専門学校
- 7) フィールド学習 (10名)
島根県立大学 (8/22～24)
- 8) その他職種病院実習
理学療法士・作業療法士・言語聴覚士：15名

(ウ) 医療職体験事業

- 1) 高校生医療体験セミナー 40名 (7/26、3/28)
- 2) 一日助産師体験 5名 (7/25)
- 3) 中学生医療現場体験セミナー 8名 (8/21)
- 4) 加茂中学校1年生班別自主研修 12名 (6/26)
- 5) 雲南市「夢」発見ウィーク 10名 (10/10～12)

(エ) その他

- 1) 大東高校 SIM 学習 5回参加
- 2) 三刀屋高校未来創造探求 21名 (7/25、10/4～5)
- 3) 大東・横田高校「地元企業ガイダンス」 51名 (12/12)
- 4) ふるさと教育 (阿用小、加茂小、掛合小) 85名 (12/6、1/23、2/5)

(2) 経営の効率化を図り、経営基盤の強化を図ります。(経営効率化編)

(3) 一般会計の負担(操出基準)の適正化を図ります。(経営効率化編)

その他

- ・雲南市の委託事業として、「産後母子ケア」事業を継続し、1名（3回）の受入れを行った。また、助産師が雲南市の育児相談に参加し、育児に対する悩みなどの相談を受けながら、院外での活動を広げることに努めた。
- ・助産外来の増枠（1回／週を2回／週）を行い、妊娠期の関わりを深め、安心・安全な出産育児への支援を行った。
- ・新たに、赤ちゃん体操教室・マタニティビクス教室を開設し、周産期支援を拡充した。
- ・在宅医療を推進するにあたり、連携強化や様々な課題を話し合うための場作りが重要であるため、開業医と合同で症例検討を行う「うなん病診連携勉強会」を平成29年より開催し（平成30年度1回開催）、病診連携の強化と顔の見える連携体制構築を図っている。
- ・平成29年4月より雲南市健康福祉部健康づくり政策課内に医療介護連携室が設置され、当院から2名併任で業務を行っている。このことにより、市役所との連携強化を図り、地域包括ケアシステム構築に向け推進している。
- ・平成30年7月、雲南市の健康づくり拠点として、加茂B&G海洋センター（ラソンテ）がリニューアルオープンしたことに伴い、理学療法士2名が水中運動指導士の資格を取得し、市民を対象に水中運動教室を月2回開設し、ロコモ対策の水中ウォーキングを提供している。